

滝の原便り



社会福祉法人西仁会 広報誌

〒320-0851 宇都宮市鶴田町3381

TEL 028-632-7577

年明け早々から猛威を振るう新型コロナウイルスの新変異株「オミクロン株」、27日には「まん延防止措置等」の対象地域が本県も含め34都道府県に拡大しました。いつだれが感染しても不思議ではない現状にあります。このような状況から、2月より感染予防のために面会を中止させていただくことになりました。今後とも感染防止対策に万全を期してまいりますので引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

さて、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が始まりました。主人公は武家政権を確固たるものにした2代執権北条義時ですが、前半の見せ場は源平合戦となるのでしょうか。鎌倉幕府初代将軍源頼朝の弟源義経に率いられた源氏軍が平氏との戦いに次々と勝ち、平氏を西国に追いつめ、壇ノ浦で滅ぼす一連の戦、戦の天才ともいわれる義経の活躍、どう描いていくのか楽しみでもあります。

この戦いで源義経に仕えた本県（下野国）出身とされる武将「那須与一宗高」、有名なことでは「義経」に引けを取りません。与一の名を一躍高めた「扇の的を射落とす場面」は、それから数十年後（13世紀前期）に成立した「平家物語」で詳細に語られていますが、その後、与一はどうなったか全く記述がありません。この平安末期の内乱から鎌倉幕府成立に到る過程を伝える「吾妻鏡」などの確かな史料にも

出ことにはできないのです。那須氏は南北朝時代（15世紀前）から戦国時代（16世紀前）にかけ、下莊と上莊とに分裂し、約100年を経て下那須氏に統一され、その後、秀吉や家康に臣従していくのです。

江戸時代に作成された那須諸系図では、与一は那須太郎資隆の11番目の子で、源平合戦では兄たち9人が平家方でしたが、兄の十郎為隆とともに源氏に付いたとされています。屋島で扇を射抜いた勳功により源頼朝から丹波・信濃など5か国に荘園（領地）を拝領しています。また、与一宗資（むねたか）は父の実名「資高（すけたか）」に改名し、那須氏の家督を相続。その後（1190年）源頼朝の上洛に供奉して山城国で亡くなり伏見の即成院に葬られたとされています。

この諸系図に記載された内容の多くは、確かな史料では確認できません。最も信頼性が高いと評価されているこの即成院は鎌倉前期、大変富裕な皇族「宣陽門院（後白河法皇の娘）」の庇護を受けその墓所にもなった寺院です。しかし、宣陽門院が死去し時も隔てた室町時代ともなると庇護されていましたが、その記憶も薄れています。その（宣陽門院）代わりとして出てきたのが「平家物語」で当時大変な人気になっていた那須与一です。墓の主の交代も含め、宣陽門院から与一につけ替えがあったとも指摘があるのです。時代が下り江戸時代に作成された那須諸系図における「与一の死」に関する記述は「即成院縁起」に基づくものであり、これらを史実として扱うことは難しいのではないか。

14世紀中盤に作成された那須氏の系図では、那須氏の始まりは平家物語・扇の的に登場する、与一の父とされる「那須太郎資隆」と確認できるのです。那須与一の存在や改名は確認できません。この系図では「与一」は先祖として位置づけられてはいなかつたとみられます。

京都伏見にあつた即成院（現・湧出寺・塔頭）には与一の墓と伝えられる石塔が残されており、与一ゆかりの寺

として知られています。当院の中世にさかのぼる縁起は、与一の死に言及している唯一で確実な文字史料です。この縁起の後半部分で与一が登場します。その概要は「義経に隨い上洛した与一は当院の前身・光明院において合戦での功名を祈念。そのお礼に私領300町を寄進、寺名を即成院に変えた。その後、当院本尊前で往生、その墓は当院に残る」とあります。

原の滝温泉ファミール



【もちつき】 12月27日（月）
例年リハビリ室にて全利用者・職員が参加して行う大きな行事のひとつでしたが、今年も縮小しての開催です。風が強くとても寒い日でしたが、力いっぱい頑張りました。



【クリスマス】 12月24日（水）・25日（木）
今年はひざ掛け・スウェット・肩掛け・ベストのうち一つをプレゼントにご用意しました。そしてお楽しみのデザート。翌日はシャンパンで乾杯して、お楽しみのディナー「美味しい」「かわいい」などのお声をたくさん頂きとても嬉しく思いました。



【コーヒー喫茶】
デザートは「イチゴスペシャル」に生クリームとブルーベリーソースをトッピングして、お皿にもチョコペンでデコレーションしました。淹れたてのコーヒーと一緒に美味しくいただきました。

【新年祝賀会・レクリエーション】
好きな飲み物で新年初の乾杯！朝早くから厨房の皆さんが準備したおせち料理は彩り豊かで皆様に好評でした。お雑煮も一緒に召し上がって頂きました。

難読漢字クイズやお習字などレクリエーションで職員も一緒に盛り上りました。おやつは日替わりで練りきりと大福茶・玄米茶・煎茶をご用意しました。



通所リハビリテーション

【干支の壁紙】
紙を切って小さく丸めて・・・本当に大変な作業でした。にもかかわらず、みなさん率先して参加してくださいました。色んなアイディアも出してくださり、最後は総力戦で何とか新年に間に合わせることが出来ました。感謝感謝です。寅年には「成長」や「始まり」の意味があると言われているそうです。今年が、新しい芽の「成長する」、新しい日常が「始まる」年になつて欲しいものです。



【行事食】
当施設では利用者さんに季節感を感じていただけるよう、様々な食事を提供いたしております。行事等が思うようにいかないこんな時期だからこそ、美味しいものを食べて笑顔になつて頂きたいと思っています。ほら、みんないい笑顔でしょ？



【クリスマスツリー】
ペットボトルの蓋でクリスマスツリーを作りました。皆さんに蓋を持ち寄って頂きました。色別に分けて一個ずつ貼り付けて、大きなクリスマスツリーの完成です。完成までには沢山の時間を要しましたが、作る苦労があつた分みんなに喜んでいただけました。

展示が終わったら、綺麗にはがしてリサイクルしました。

【コーヒー喫茶】

【新年祝賀会・レクリエーション】

【クリスマスツリー】

滝の原苑

〈ハロウイン昼食会・お茶会〉 10月 31日 (日)

ハロウイン昼食会・お茶会を開催致しました。

午後のお茶会では職員による仮装パレードやゲゲの鬼太郎の曲に合わせたダンスの披露もあり楽しいひと時を過ごしました。



〈秋の味覚祭り〉

11月 24日 (水)

コロナ禍の中、外出の機会も減り気分も減入りがちな為、「おいしいものをたくさん食べて頂こう」と、昼食時に秋の味覚祭りを開催致しました。メニューは、きのこの炊き込みごはんにちらし寿司、三種の串揚げ（ホタテ・チーズ・豚肉）、鮭のちゃんちゃん焼き、なすと舞茸の炒め煮、さつまいものきんぴら、かぼちゃのサラダに芋煮汁、などでした。中でも、鮭のちゃんちゃん焼きが一番の人気メニューで、おかわり分まで回すことができませんでした。



〈新年祝賀会〉 1月 1日 (土)

今年も早朝より『おせち』や『お雑煮』を準備して頂き、新年のご挨拶のあと乾杯へ。

おせち料理を食べながら、ゆったりとした時間を過ごされました。



〈新年祝賀会〉 1月 1日 (土)

今年も早朝より『おせち』や『お雑煮』を準備して頂き、新年のご挨拶のあと乾杯へ。

おせち料理を食べながら、ゆったりとした時間を過ごされました。

〈もちつき会〉 12月 28日 (火)

昨年より参加者も増え、試食も楽しんで頂きました。もちろん昼食はつきたてのおもち。やはり、一番人気はあんころもちでした。



〈クリスマス会〉 12月 25日 (土)

今年のクリスマス会の催しものは、『ハンドベル演奏』『ギター演奏』『ダンスの披露』でした。職員と利用者さん数名に協力を頂きハンドベルの演奏を行った後、ギターに合わせ全員で大合唱。その後、『マツケン?』が登場し、職員全員で『マツケンサンバ』を披露しました。メニューは洋風でオーダーブル形式。各テーブルにソリーやトナカイ、サンタクロースをかたどつたお料理が並び、ご利用者の皆さんに大変喜んで頂きました。



ケアハウス滝の原苑

クリスマス会

12月 25日

トナカイの形をしたアメリカンドッグやサンタのポテトサラダなど、かわいいお食事をご用意し「美味しい」と好評を頂けました。ビーフシチューは特にオススメです。サンタのおじさんからプレゼントを頂きました。中身は秘密です。



新年祝賀会

1月 1日

新年あけましておめでとうございます。

今年もコロナ禍で静かなお祝いとなりました。お祝い膳を用意しました。少しだけお正月を感じて頂けたかと思います。

今年一年ご利用者様がご健康で、そして一日も早くコロナが収束し日常生活を取り戻せるよう職員一同願っております。



今年も皇帝ダリアが見事に開花しました。30cmほどの小さな苗でしたが、今では2m近くまで伸び、利用者の皆さんを楽しませてくれました。

〈皇帝ダリア〉

ご存知ですか「現代（令和）のロビンフッドの挑戦」

弓の名手といえば先ず思い浮かぶのは「那須与一」でしょうか。その名手ぶりは「平家物語（扇の的）」に描かれています。

京都や一の谷（神戸市）などで源氏に敗れた平家は四国の八島にたどり着く。しかし、そこでも源義経の奇襲に合い、慌てた平家は舟で海に逃れ、陸の源氏と対峙する。夕刻となり互いに退き始めた頃、沖に並ぶ平家方から一艘の小舟が源氏の方に近づいてきた。その小舟には美しく着飾った女性が日の丸を描いた扇を竿の先端につけて立っている。「この扇を矢で射抜いてみよ」という挑発である。これに対し、義経は那須与一に扇を射よと命じる。与一は辞退するも命令に背く訳に行かず意を決して馬に跨り海際に乗り出した。そこから扇まではまだ7段ほど（約77m）ある。両軍かたずをのんで見守る中、与一は故郷の神仏に祈り決死の覚悟で矢を放つ。矢は長いうなり（音）を立てて扇を射抜いた。

「扇の的」のあらましだが、この場面での与一に現代の弓道の達人たちがこれまで数多く挑んできた。成功事例はアーチェリーも含め1～2例あるようだが、いずれも与一の時は条件が異なる。とりわけ「矢」は与一のとき使われた「鏑矢（かぶらや）」ではないことだ。与一と同じ条件でのチャレンジに興味ある方にはうつつけのテレビ番組が昨年5月放送された。それはNHK・BS「偉人にチャレンジ伝説の真相に迫る」那須与一の扇の的伝説である。「扇の的伝説」がどんな条件で成し遂げられたのか検証し、その条件を整え現代の精鋭がチャレンジしていく番組である。

「1851年3月28日（新暦）午後5時頃の自然環境を科学的に推定、再現する。扇までの距離は77m、小舟の上にあつた扇の的は波で揺れている。そして扇を射る矢は先端が鉄製の二股に割れた鏑矢である。通常の矢の数倍は重くなるという。舞台は整えられた。そこに立つのは日本一にも輝いた弓道家・徳山陽介氏である。日々練習を積んでの挑戦である。しかし、1射目を外し再現はならなかつた。その後10射目まですべて外した。本人からの要請で行われた最後の11射目、小舟で揺れる扇を見事射抜いたのである。成功確率は1%に満たないという。11射目で射抜いた徳山氏もすごいが、我が郷土のヒーロー「与一の偉業」に改めて感服させられた。

編集雑記

「正月三が日」が過ぎると予測をはるかに超える勢いで感染拡大（爆発）が日本全国で続いている。ここに至つて、新変異株オミクロンの感染力の凄まじさ、また感染拡大が先行している欧米において1日で発生する感染者数が数十万、100万人といった数値を現実のものとして受け止めることができたような気がします。今では欧米の、多くの国でピークアウトを迎え日本も間近との見方もありますが、是非早くそうなつて欲しいですね。

コロナが猛威を振るう中、日光市を会場に1月24日から開催されていた冬季国体が30日幕を閉じました。すべての競技が無観客で少し寂しい感じはしましたが、選手たちは熱い戦いが終わるほつとしているところでしょうか。2月4日からは中国北京において冬季五輪が20日までの17日間、冬季五輪史上最多の109種目で熱戦が繰り広げられます。日本はウイグル人権問題の対応を巡り政府代表団を除き派遣することになりました。選手たちには頑張つてもらい、前回韓国・平昌大会で獲得した個（金4、銀5、銅4）以上の活躍を期待したいですね。

今年の4月1日から成年は、これまでの20歳から18歳に引き下げられます。明治9年に定められた民法が146年ぶりに改正され、本年4月1日に18歳、19歳の方は4月1日に新成人となり、保護者の同意がなくとも借家やクレジットカードなどの契約や携帯電話の購入などができるようになります。また、女性が結婚できる年齢は16歳から18歳に引き上げられ、男性・女性が同じになります。なお、飲酒や喫煙、競馬などの公営競技はこれまでと変わらず20歳です。ところで成人式はどうなるのでしょうか。成人式は各自治体の判断で行われており、今とところ、多くは従来どおり20歳になる方を対象に考えているようです。しかし、おかしいですよね。「18歳で大人」と法令（国）で決めたのに自治体は20歳にならないと認めないのでしょう？来年の成人式に注目ですね。

つい先日、今年の花粉飛散予測が気象協会より発表がありました。飛散開始は2月中旬頃からで飛散量は例年並み（90%）ですが、昨年よりはやや多い（110%）ようです。飛散のピークはスギが3月一杯、ヒノキは4月上旬の予報です。今のうちにしっかりと準備をしましょう。一段と寒さは増してきます。ご自愛を。



職員のご紹介



ケアハウス滝の原
介護職



相談員
(令和3年5月入職)



（令和3年4月入職）